

Michel Bozon

Changements sexuels et changements sociaux depuis 1960 en  
France : est-ce une révolution sexuelle?

「フランスにおける1960年代からの性と社会の変化：性の革命と言えるのか？」

(通訳付き)

日時：2015年6月9日(火) 14時45分-16時15分

場所：吉田南総合館共南11講義室



ミシェル・ボゾン

人類学を修め、現在は社会学者としてフランス国立人口統計学研究所の教授を務める。数量的調査に基づいて、彼はカップルや家族の形成について、また、社会における人間関係や余暇について、さらに青少年や成年への移行についての研究を行った。

1990年はじめから、彼の研究は一方でフランスやラテンアメリカ諸国（とりわけチリ、ブラジル、メキシコ）での調査に基づいたセクシュアリティの社会学に向けられ、もう一方でジェンダー関係論に向けられた。彼は、ナタリー・バジェスとともに、2006年に18歳から69歳の12000人以上に対して実施された、「フランスにおけるセクシュアリティの現状」調査の共同責任者をつとめた。

全学共通教育科目ジェンダー論講義

共催：京都大学文学部アジア親密圏・公共圏教育研究センター

日仏会館